

駒場リサーチキャンパス公開 2022



社会連携研究部門「再生可能燃料のグローバルネットワーク」と先端教育アウトリーチラボ共催のコンサートで水素燃料電池自動車について説明する杉山正和所長



現地開催 × オンライン!!

6月10日(金)、11(土)の両日、「東大駒場リサーチキャンパス公開2022」が開催され、2日間で約3000人の来場者を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年度は中止(「バーチャル先端研公開」を開催)、2021年度はオンラインのみでの開催でした。

今年は来場型とオンライン型のハイブリッド形式で実施。現地開催は消毒・検温を行い、飲食禁止、事前予約制導入など感染対策を徹底し、3年ぶりに直接来場者との交流を楽しみました。また、オンライン配信での企画も行われ、多くのアクセス数がありました。個性豊かな最新の研究成果に触れ、参加者には驚きと笑顔が広がっていました。

特設サイト(<https://2022.komaba-oh.jp/>)では、各研究室の概要やアーカイブ配信などがご覧いただけます。



水素燃料電池自動車MIRAI(本ページ上の写真)から給電した電子ピアノが使用された、中島さち子さんらによるコンサートは大盛況。美しい音色にうっとり

テーマはカーボンニュートラル

今年のオープニングセレモニーは「カーボンニュートラルの実現に向けて―大学からの提案―」。カーボンニュートラル社会を実現するためには、エネルギー供給の構成はもちろん、需要側も含めた社会構造を大きく変えていく必要があります。豊かで、安定した、環境にやさしい、安全な社会を将来にわたって発展させていくためには、これからのような技術や制度の革新が必要なのか、そして人々の意識や行動にもどのような変容が求められるのか。生産技術研究所(生研)の岩船由美子特任教授が「カーボンニュートラル実現のためのエネルギー需要家の役割」、先端研の河野龍興教授が「カーボンニュートラルを実現する水素エネルギー ―次世代に向けた新たなエネルギー技術―」と題してそれぞれのカーボンニュートラルへの取り組みについて、講演を行いました。



生研の岡部徹所長、先端研の杉山正和所長の挨拶で始まったオープニングセレモニー。現地開催とオンライン配信で行われた

自治体マルシェにわくわく

6月11日(土)、3号館前では先端研が連携協定を締結している自治体の物産展「連携協定自治体マルシェ」が初めて開催されました。地域とのネットワークを基調として取り組んでいる地域共創リビングラボの活動の一環として開催し、石川県、熊本県、和歌山県、いわき市(福島県)、軽井沢町(長野県)の5自治体が参加。大勢の来場者が各自治体のブースで特産品(お菓子・酒類・雑貨品など)の購入やブース店員との会話を楽しみました。さらに、今回のマルシェには自治体PR活動として、ゆるキャラが集合しました。熊本県のくまモン、軽井沢町のルイザちゃん、いわき市のフラおじさんが会場を大いに盛り上げてくれました。



いわき市のフラおじさん(左)と
軽井沢町のルイザちゃん

マルシェ担当者より

連携協定自治体マルシェは、今年度が初めての試みであり、また、コロナ禍での開催でしたが、参加自治体をはじめ、皆様の多大なるご協力をいただき無事に開催することができました。感謝申し上げます。当日は多くの来場者やスタッフの方がマルシェに立ち寄ってくださり、賑わいのある楽しい空間の創出に貢献できたものと感じております。

(経営戦略企画室 産学官連携協力員 岡田 寛正)

NEW
自治体マルシェ
開催



蕎麦やジャム、酒などご当地の特産品が並んだブース



せんたん研究員のくまモンが登場!
©2010 熊本県くまモン



地域共創リビングラボの活動に関する展示



ブース店員との会話も楽しみの一つ。商品を通じて「遊びに行ってみよう」との声も

● 東京大学で知的障害のある人は学べるのか？



LEARNプロジェクトなどについて話す中邑賢龍シニアリサーチフェロー

● RCAST STUDIO公開



先端アートデザイン分野の拠点である1号館のRCAST STUDIOを公開

● 【AccessReading】音声教材を活用した学びを知ろう！



教科書のデータである音声教材の機器展示や機能などを紹介（近藤武夫研究室）

● フォトニックナノ構造とトポロジカル波動工学



3年ぶりの現地開催で少し不安に感じていた部分もありましたが、ふたを開けてみれば客足が途絶えることなく説明に追われる充実した時間となりました。幅広い年齢層の方と直に色々お話しをさせて頂く機会も久々でしたので、やはりこのようなオンサイトイベントは貴重な機会であり、今後とも継続的に現地開催してほしいと思います。
(極小デバイス理工学分野 特任助教 林 文博(LIN Wenbo))

● 昆虫がもつ驚異的な匂いセンサと脳のしくみをのぞいてみよう！



普段の実験で扱っているカイコガについて、実物をお見せしながら自分たちの研究と絡めてお話できる良い機会でした。養蚕をご存知の方は多かったものの、研究対象としてのカイコガはほとんど知られておらず、フェロモンを嗅ぎ取った際に動き回るカイコガの様子なども幅広い年齢の方に楽しんでいただくことができました。
(生命知能システム分野 神崎研究室 M2 内田 智也)

● 体験して想像する身体の未来



ロボットと人間の身体を通じた融合などさまざまな体験ができた身体情報学分野（稲見・門内研究室）

現地開催

※ 人数制限を設けるなど新型コロナウイルスの感染対策を講じて実施



来年度のジャンプが楽しみ

今回は、3年振りの現地開催を含む初めてのハイブリッド開催となりました。感染状況が読めない中、関係スタッフの皆様のご尽力で様々なオペレーション設計がなされ、盛り上がりの中、無事終えることができたことにまず感謝申し上げます。各研究室の企画に加えて、地域共創リビングラボからの新しい取り組みである連携協定自治体マルシェは、ご当地キャラの集合もあって大変賑わい、私自身も楽しみました。産地のものを通じ、連携自治体への理解が深まったのではないのでしょうか。また、多くの方にオリジナルTシャツを着ていただけて、チーム先端研としてまとまった姿を来場者に見せられたと思います。今回のハイブリッド開催をステップに来年度のジャンプが楽しみです。

駒場リサーチキャンパス公開 2022

キャンパス公開ワーキンググループ委員長 特任教授 檜山 敦



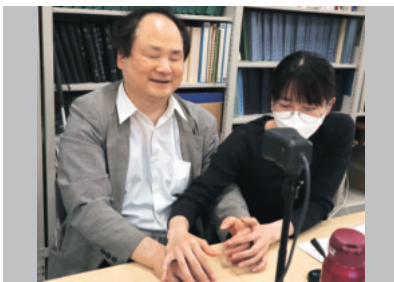
身体情報学セミナーで登壇する檜山先生（中央奥）。せんたん研究員のくまモンとも3年ぶりの掛け合い。
©2010 熊本県くまモン

- 過去の気象情報で、安心・安全な暮らしと社会を実現する～日本の将来に向けた気象データの利活用～



気象のデータについて学び、安全・安心な社会づくりのための活用を考えるウェビナーも開催された

- コロナ禍 障害者がいまを語る



オンライン配信する福島智教授。映画「コロナ禍 もうろうはいま」(西原孝至監督)も上映

- ROLES研究セミナー「沖縄返還の道のりを振り返る」



2022年は、サンフランシスコ平和条約発効から70年、沖縄返還から50年という節目にあたります。この節目を迎えるにあたって、今回、池内研・ROLESは、日本の独立回復後、最大の課題のひとつであった沖縄返還について検討する研究セミナーを実施しました。このセミナーを通じて、沖縄が「我々の問題」であると感じとる、ひとつのきっかけとなれば幸いです。(グローバルセキュリティ・宗教分野 特任研究員 鍛冶 一郎)

- 政治寄席2022 御厨 貴 × 牧原 出



キャンパス公開恒例の「政治寄席2022」では、ゲストに朝日新聞社でウェブ論壇誌「WEBRONZA」を立ち上げた吉田貴文氏、若手の気鋭の社会学者西田亮介氏、新型コロナの専門家を綿密に取材した河合香織氏をお招きして、御厨貴フェローと牧原とで現代政治を論じました。ウェブと紙媒体、アーカイブ、放送とSNS、さらには今後の新型コロナの状況や参議院選挙など、転換期の今を様々な角度から描き出す狙いです。縦横無尽に語り尽くせたのではと振り返ってみて感じています。(政治行政システム分野 教授 牧原 出)



各研究室 から

社会包摂システム分野 特任助教 松清 あゆみ

社会包摂システム分野としては研究室公開と3つのイベントを開催しました。2日間のキャンパス公開で、研究室公開のブースにも非常に多くの方にお越しいただきました。これまでバリアフリーというものに触れていなかった中高生も数多く来場いただき、支援機器等を体験していただける貴重な機会となりました。

マシンインテリジェンス分野 講師 棕田 悠介

コロナ禍の中たくさんの方にお越しいただき、とても嬉しく思います。研究内容について様々な角度から議論、コメントをいただき、我々も大変有意義な時間を過ごすことができました。今後も研究室の持つ最新の人工知能技術について、広く紹介していきたいと考えています。

インクルーシブデザインラボトリー 特任助教 工藤 怜之

着任3年目にして初めて現地でのキャンパス公開に参加しました。並木研ではアクセシブルな実験設備等の開発に取り組んでいるため、実際に設備に触っていただく機会を得られて良かったです。そのような仕様の普及が現実的に可能なのかと鋭い指摘をくれた中高生もいて、訪れてくださった方々の関心の高さに励まされました。

知能工学分野 矢入研究室 M1 高山 諒介

普段はあまり接点のない様々な人と交流することができ、それがとても印象に残っています。特に、同じ専門領域の学生と議論をしたり、他分野の研究者の方々の興味深い話を聞いたことは良い経験になりました。また、そういった話を通して矢入研究室の魅力が伝わっていると良いと思います。



ワーキンググループの皆さま、ありがとうございました。最後はオンラインで一本締めの解散!